おでかけだより 秋 多NO. 70 2021年10月1日



発行: NPO法人おでかけサービス杉並発行責任者: 樋口蓉子〒167-0051杉並区荻窪5-18-11サニーシティ荻窪103TEL 03-6425-8584FAX 03-5397-1755

http://www7b.biglobe.ne.jp/~npo-odekake/

運転協力員ってどんな人?

おでかけサービス杉並の『移動サービス』を担ってくださっている方を、敬意をこめて運転協力員と呼んでいます。定年後の地域貢献として活動してくださっている方がほとんどですが、お仕事をしながら空いた時間を提供して活動している方や、他のボランティアと並行して活動している方もおられます。中には10年以上活動を続けているスペシャリストも。

運転協力員からよく聞くのが、お乗せした方に「ありがとう」と喜んでいただけたときが本当に励みになるという言葉です。それがあるからこんなコロナの厳しい状況の中でも皆さんのためにと踏ん張って 運行してくださっているのだと思います。感謝です。

一般に、不特定多数の人を乗せて運行するタクシーは2種免許が必要ですが、私たち福祉有償運送の運転協力員は、国土交通省で定められた約8時間の基本となる講習カリキュラムを受講修了すれば普通免許で活動ができます。講習は国土交通大臣から認定された団体が行う事ができ、杉並区では『すぎなみ地域大学』の講座として、『東京ハンディキャブ連絡会』に委託をして行っています。行政が予算を使ってこのような講座を応援するのは珍しい事のようです。

また杉並区の講座の特徴的なところは、通常2日間の講座を3日間で行い、基本のカリキュラム以外に、区内で活動している福祉有償運送団体(6団体)の活動状況や、すでに活動している運転協力員・利用者などと直接対話できる時間を設け、受講修了生の受け入れの機会を積極的につくっています。受講生からは、活動のイメージができると好評です。

今年度の講習は、11月14・21・28日の3日間で行われます。 皆さんの参加動機を伺ったところ一番多かったのが「地域で何か役に 立つ事がしたい!」でした。

現在受講生募集中です。少しでも気になったら

すぎなみ地域大学 **2**03-3312-2381 (平日8:30~17:00) までお問い合わせください。

新規運転協力員 海老沼 明夫



初めまして、この度、運転協力員の登録をさせていただいた海老沼明夫です。 私もずっと杉並区の住民です。今年(令和3年)6月で再雇用終了となり、以 前、認定NPO法人福祉送迎サービス・杉並で少しばかり運転協力員をしてい ましたので、活動を再開したところです。前職は中堅のシステムインテグレー タ勤務でしたので、現在もITに関する相談やサポートもしております。

住宅街を走っていると、福祉車両を多く目にします。また、通学時間帯もありますので、狭い道は"ゆっくりと慌てずに"を心掛けています。

ご利用者の多くが病院通いでの利用が多いようですが、いつの日か海や山へお連れしてリラック スしてもらえたらと思っております。

今年も西荻。善福寺才一プンサロシDAYA

けやきの見える家発

8月はお休みしましたが、9月は集まる人の数を更に減らして再開しました。以前のように大勢で集まってのコンサートなどは難しいですが、何か皆で楽しめる企画はできないか、今年で3年目になる地域のイベント「オープンサロンDAY」の実行委員会に参加して考えました。地域にある12のサロンとサロン、西荻・善福寺に暮らす人たちがゆるやかに繋がる企画の準備が進んでいます。

4つの企画が動いているのですが、けやきがいちばん力を入れているのが「みんなでつくる! ジオラマサロンMAP」です。サロンの場所が描き込まれた地図をテーブル大に引き伸ばして箱庭のように立体的に作ってみようというもの。けやきの見える家では日頃からおり紙でいろいろな物をつくって楽しんでいるので、パーツはすべて折り紙でということになりました。一緒にやりたい! と手を挙げたサロンと一緒に〈ジオラマ部〉を結成。「大ケヤキや善福寺公園の池はどんな風にする?」「電車も走らせよう!」と楽しげに試作品作りが始まっています。完成品は10月25日(月)~31日(日)善福寺公園サービスセンターに展示します。会場には「1000羽超えの折り鶴でつくる木」も姿をあらわします。鶴の制作にご近所の皆さんに力を貸していただくために、「ちっちゃい鶴チャレンジ! 大➡中➡小(さて、あなたはどこまでちっちゃな鶴を折れるでしょうか)」も展開中。

他にも「まちのあちこち お家DE O円均一」「ハロウィン」「想いを届ける移動式の図書館」等、気になる企画が目白押しの秋です。





暑かった夏や、騒がしかったオリンピック・パラリンピックが終わり、さわやかな秋が訪れました。本当にコロナは収束に向かっているのでしょうか?気を緩めることなく身に付いた習慣をこれからも続けていきたいと思います。さて今年6月に起きた千葉県八街市での飲酒運転による痛ましい児童死亡事故。今、福祉有償運送でもアルコールチェッカーを使った乗車前点呼の義務化を進める動きがあります。もちろん安全を考慮してのことですが、あの事故と私たちの活動とでは根幹が全く違うと思います。国による十把一絡げのような提案は疑問です。

コーディネーター 野口 恭子

